

第8回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成24年2月16日(木) 14時～16時

場所 かながわ県民センター コミュニティカレッジ講義室2

出席者 委員6名(欠席:米田委員)

オブザーバー1名(県委託事業者 NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ)

1 開会

- 事務局から、新しい公共支援事業「寄附促進に向けたNPO認知度向上事業」の24年度の事業企画提案の募集を開始したことについて報告した。

2 協議

(1) 23年度第4四半期に実施する企画について

- 本年度中に委員会が自ら実施する取組みについて、前回会議等の結果に基づき事務局が作成した企画案をたたき台に、具体的な内容を決定した。
- 決定した内容に基づき、役割分担やスケジュール設定を行った。

(2) 23年度実施事業の振返りについて

- キャンペーンの広報活動を担当した(株)相鉄エージェンシーが提示した自己評価について協議し、取りまとめた結果を事業者に送付することとした。
- 新しい公共支援事業「寄附促進に向けたNPO認知度向上事業」の4件の各事業について、事務局から進捗状況を報告した。

(3) その他

- 24年度の協議スケジュールについて協議し、当面、案のとおり進め、必要に応じて修正することとした。

3 閉会

～主な発言～

(委員会が実施するセミナーの内容に関する発言)

- ・手塚委員、益永委員の考案したクリアフォルダー、奥津委員がマラソンに着用したTシャツなど、キャンペーンの広告デザインを活用した実例をNPOに紹介できる。キャンペーンのロゴマーク等の使用の増加は、キャンペーン普及のバロメータになる。
- ・資金調達の新しい手法、クラウドファンディングは地元でも講座のテーマに取り上げられている。
- ・クラウドファンディングは対象をNPOに特化していないものもあるが、日本中のそうした事例を集めて紹介するのは興味深い。
- ・クラウドファンディングでは、all or nothing(寄附応募が目標額に達しない場合は支援が成立しない)の考え方を取っているが、結果がはっきりして分かりやすい。
- ・随時寄付を募集するサイトもあり、資金仲介サイトは多種多様である。NPOが様々な手法があることを知ることが大事で、見極める力をつけることにつながる。
- ・寄付金を得る方法はWebサイトだけではない。呼びかけ方や貯金箱などの道具を使う工夫もある。

- ・セミナーのテーマは広報か、ファンディングか。
- ・共感を獲得すること、ではないか。その中に広報が含まれる。
- ・集める側だけでなく、集めていることを伝える人々にも参加してもらいたい。
- ・寄付金の使い道やその結果の伝え方もセミナーに加えたい。きちんと使ったことを伝えることで、リピーターにつながっていく。
- ・NPO法人の年次報告は、報告書を作成すること自体が目的となっている傾向が見受けられる。取組みの成果を積み重ねたものが年次報告書になることを伝えたい。
- ・事業ごとに項目を整理できるテンプレートを提供しているので、そうしたことに役立ててもらえる。
- ・委員が皆、事例や知恵を伝える講師となってもらえればセミナーが成立する。
- ・横浜コミュニティデザイン・ラボにも、キャンペーンサイトの活用について講師をお願いしたい。
- ・盛りだくさんで、時間割がきつそうだ。
- ・キャンペーンへの賛同を誘う雰囲気を作りたい。